

事務局

それでは定刻となりました。皆様方にはお忙しい中を「藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会 第4回 藤沢駅南北まちづくり市民検討部会」にご出席賜りまして、誠にありがとうございます。

それでは、まず本日の部会の成立について、ご報告申し上げます。

藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会規程第5条第2項の規定により、部会員総数の過半数の出席が認められますので、本日の部会は成立していることをご報告申し上げます。

なお、本日は、前回まで所用でご欠席でありました中小企業診断士の佐藤卓様にご出席されておりますので、ご紹介申し上げます。

(佐藤委員 自己紹介)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

事務局

本日、山岸 弘 部会員から所用のため欠席とのご連絡を受けております。また、中峯産業振興課長から所用のため、遅れて出席するとのご連絡を受けております。

それでは、次第の2に移りまして、開会に当たりまして、柳沢部会長よりご挨拶を頂きたいと思っております。

柳沢部会長

中身をやりましょう。

事務局

それでは、次第の3、議事に入ってまいります。

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

(資料確認)

なお、資料1の議事録の案につきましては、後ほどお目通しいただきまして、記載内容に何かございましたら、年明け7日(金)くらいまでに事務局の方にご連絡をいただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。資料に不足はございませんでしょうか。

それでは、議事へと入ってまいりたいと思っておりますが、本部会は藤沢市情報公

開条例第29条の規定によりまして、一般に公開とさせていただいております。
。本日傍聴を希望している方は2名の方がございます。

柳沢部会長 この会議は公開でしたね。よろしいでしょうか皆さん。それでは傍聴を希望
されている方を入場させてください。(傍聴者2名入室)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

事務局 それでは、議事に入ってまいりたいと思います。柳沢部会長よろしくお願ひし
ます。

柳沢部会長 それでは、前回議事録は1月7日までにご意見、修正すべき点があれば事務局の
方にご連絡をお願いします。

それでは(2) 目指すべき将来像の課題について

事務局 お手元の資料2等をご参照いただきながらご説明させていただきます。まず、本
日の第4回藤沢駅南北まちづくり市民検討部会(以下「市民部会」。)にあたりまし
て、前回のご議論と事務局へのご意見がございましたので、ご確認いただきたいと
思います。資料2の1ページ目でございます。第3回の戦略の右側の黒囲いの真ん
中、第3回市民部会の意見です。今後、藤沢駅周辺の商業地などの賑わいをとりも
どすため、幾つかのご意見をいただきました。要約をさせていただきますと、歩行
者動線の強化ルート、回遊軸の強化を決めていく必要があります、今後のまちなみ形成
に向けた大規模敷地や共同化する建物の敷地内に、セットバックなどにより市民の
溜まれる空間、オープンカフェやオープンスペースを確保する必要があります。オープ
ンスペースについては、回遊性・回遊軸と組み合わせで検討していく必要があります。
それから、前回事務局として、フリンジパーキングのことについて提起させていた
だきましたが、現実的でなく、既存ストックを活用する方向に切り替える。そのた
めにも、現況のパーキングの配置、収容状況など厳密な調査が必要である。今後様
々な戦略を具現化していくにあたっては、地域における独自のエリアマネジメント
が必要であろう。そういった組織については今後も研究しておく必要がある。そこ

で、一つ事例として、東京都の自由が丘のジェイ・スピリットというタウンマネジメント組織をご紹介いただきました。そして、事務局としても研究する必要があるでしょう、という指摘をいただきました。それから戦略展開にあたりましては、一つの一つの事業＝戦略の具現化については、一定のスケジュール感が必要であろうというご指摘も頂いております。

第3回市民部会の中で、8つの戦略を定めたにも関わらず、③住機能の戦略、④コミュニティライフの戦略が戦略整理において消えてしまっていたので、これらは⑧湘南らしさ、藤沢駅周辺商業地らしさの戦略を支えるものとして、明確に表記すべきであるというご指摘、ご意見をいただきました。そこで、今回の資料としては、まず、枠組みについて、ご指摘のように訂正いたしました。そしてそれぞれの戦略については、ご理解たまわりましたので、具現化に向けての方針づくりについて、資料を整えさせていただきました。今日は整備方針などについてご議論いただきたいと思います。

そこで、まず、戦略1：安全快適な通りや空間などの戦略について基本的なものについては、資料にありますように、回遊拠点・回遊軸整備方針を重要な整備方針と定め、いかに回遊性を持った歩行者ルートを整備してゆくか、また回遊拠点をどのように配置してゆくか等、方針づくりをしていただきたいと思いますと考えております。戦略2：物販・飲食・サービス等の業種・業態の戦略、同じく戦略5：文化・エンタテインメントの戦略につきましては、回遊性をいかす中で、集客拠点をいかに適宜配置していくかを主題に、現在の既存ストックがどのような配置になっているかを資料としてお示しし、配置方針をお示しいただけるようお願いしたいと考えているのでございます。次に、戦略6：交通処理の戦略。歩行者の回遊性というものを優先するのではございますが、やはりこの藤沢駅は重要な交通の結節拠点となっております。通勤通学でも多くの市民の方が利用されています。そこへの集客としまして、公共交通機関と回遊性との問題、つまり交通処理の戦略について重要になっ

てまいります。また先程お話しいたしました駐車場の配置問題、フリンジパーキング構想ではなく、既存の駐車場の配置をいかに利用した中での回遊性をはかっているか、というような考え方をお示しいただければと考えております。戦略8：湘南らしさ、藤沢駅周辺商業地らしさの戦略、これにつきましては、戦略7、戦略3、戦略4のこれらを統合いたしまして、地域によるエリアマネジメントやまちづくりといった組織化に向けた具現性をご議論いただけたらと思っております。

下段になりますが、イメージに対応した地区の状況について、資料編と記載されていますが、資料2の各ページに同じ図面の縮小版がありますので、そちらで確認いただけます。まず、歩行者の回遊性等のご議論いただきます時の資料といたしまして、資料2の1ページ右「回遊軸となりうる既存歩行者ネットワーク」をご覧くださいと思います。こちらは歩行者空間の整備状況ということで、駅周辺の歩道の整備状況を図化したものでございます。緑が歩道の設置位置でございまして、それに幅員構成が記載してございます。次に交通量の状況ということで、藤沢駅周辺商店街活性化調査事業報告書より通行量調査結果の抜粋です。次に集客施設の分布状況です。資料2の3ページ図ですが、これは回遊性の中を補完する戦略2と5に係る物販・飲食、エンタテインメントといった既存ストックを図に表したものでございます。これらは、どのような回遊ルートを定めていくか、の参考にさせていただければと考えております。右側に凡例がございまして、ピンクが大型店。文化施設等が黄色。宿泊施設、各官公庁、アートと記載があるのは音楽その他に関連する施設などを示しております。また薄いピンクで塗りつぶしてあるゾーンが駅周辺の商店街の配置状況でございます。次に駐車場、駐輪場の整備状況です。資料2の4ページの図では駐車可能台数を数字で示しております。以上が、イメージに対応した地区の状況の関連資料の紹介でございます。

なお、資料2の1ページ目、最下段の第3回藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会の意見の欄ですが、過日藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会（以下「委員会」。

）が行われまして今までの市民部会等ものについて、事務局から報告させていただきました。委員会の委員さんからは、その報告を踏まえた中で、更に市民部会の方で、議論を深めていただきたいというご提起を受けた文言をここでは記載しております。公共公益施設、サービスの配置、鉄道3線の交通結節機能は藤沢だけの話にとどまらず、どう活かしていくか、広域からの視点も忘れないで欲しい。それから、先程、交通処理の戦略の中でも申し上げましたけれども、人や車の流れをどうさばくのか、これが歩行者優先の考え方も含め、公共交通と車とどう配置するか、これが2つの大きな柱だと思うので戦略6が重要な課題である。それから前回委員会では藤沢市民だけでなく、多くの来街者が藤沢駅周辺を利用されることから、来街者目線でどういった賑わいを取り戻すための戦略があるのかということも是非ご検討いただきたいということでした。次は事務局としても少し耳が痛い話なのですが、ロハスな生活を、とそういうことをご提起させていただきましたが、実現できるのかイメージが湧かないということで、イメージが湧くようなご議論をいただければということをご意見いただきました。

次にそこを踏まえまして、資料2の2ページでございますが、本日は事務局として、それぞれの戦略の整備方針を文言でまとめさせていただいております。一つ一つについて、ご議論をいただきたいと存じますが、戦略1につきましては、コアゾーンの、特に自由通路を含めました駅舎の問題、ここにつきましても回遊性の誘導拠点という重要な位置づけをし、ここから藤沢駅利用者の方々、来街者の方々が駅周辺へ回遊いただくような出発地点となる重要拠点と考えております。そういう意味も含め、過日開催されました専門部会におきまして、今後議論することになっておりますので、その議論の結果を報告させていただく、または合同の部会といった形で両部会の接点を持っていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。下段には現在の駅の状況が書いてあります。今後、北口デッキ、南口広場・デッキを含めました改良につきましては専門部会で検討され、南北の交流の出発点

としてのゾーン開発がなされていくと考えているところでございます。次に進みます。

3ページです。戦略2：物販・飲食・サービス等の業種・業態の戦略、戦略5：文化・エンタテインメントの戦略。これは先程の駅から出た市民の方、来街者の方が藤沢駅周辺を回遊するために歩いていただくための戦略の重要なものとして位置づけてございますが、集客拠点の配置といたしましてコアゾーン、サポートゾーンに回遊性を補完するために、回遊拠点の軸と合わせまして目的地となる集客拠点が必要であり、本地区の大型商業施設や文化施設等既存ストックとともに、適宜、配置をどのようにするかを考えていくことが必要であると考えております。先程ご紹介いたしました図で、既存の大型店、文化施設、アート施設等配置図と参考の写真を掲載させていただいております。

次の4ページでございますが、戦略6：交通処理の戦略です。これは冒頭申し上げました、歩行者の安全な回遊性を担保するために、一定程度、車と人との棲み分けという中で、当初FRINGEパーキングの提案をさせていただきましたが、既存の駐車場の現況はどうかを把握した上で、人と車の棲み分け等を改めて考えてみたらどうか、というご指摘を受けた中で、下段に記載させていただいておりますとおり、現在の駐車場の配置に関しては、ほぼ足りているというような状況もございますので、これら既存ストックをいかした中での歩行者と車の路線を選定で棲み分けがはかれればと考えているところでございます。自転車でございますが、これは藤沢の駅前でも今、重要な問題になっておりまして、現実的に足りないと言われております。いわゆる買い物客の問題、それから通勤・通学の問題などございますが、整備状況、それから先程の青のポイントで表現しましたが仮置きかどうかは別といたしまして、路上放置の状況もございますので、安全安心や景観の面からやはり良くないということで、これらを併せて自転車駐輪場の配置について、考えていく必要があるのではないかと考えております。そこで戦略8：湘南らしさ、藤

沢駅周辺商業地らしさの戦略では、色々な戦略を具体化し、それを運営・経営維持する中で、それをつかさどるエリアマネジメント組織が必要ではないかと考えております。自由が丘で学んできたことですが、例えば、戦略7のまちなみや景観の戦略につきまして、建物等の建て直しの時に、地区での一定の街並みガイドラインを定めた中で、それにご協力を逐次いただくようにする。期間はかかりますが、皆で考えた藤沢駅周辺のまちなみというものをつくっていくという考えでございます。それから戦略3：住機能の戦略といたしましては、駅前の商業地の（ビルの）中に1階から住宅というのはいかがなものか、という考えから、周辺の商業地との一体感を喪失しないように、1～2階といった低層部分への商業機能の配置を誘導する。これも一つの街並みのガイドラインであると考えております。戦略4：コミュニティライフの戦略は、戦略3住機能の戦略の配置と合わせましてのコミュニティライフの充実でございます、これからの駅周辺地区の戦略といたしまして、若い方、お年寄りの方も安心して住める藤沢駅周辺というものを考えておりまして、その中には若い世帯をターゲットとした保育所・託児所、自由が丘の場合は、お買い物に来られた若いご夫婦が一時、その保育所・託児所へお子さんをお預けしていただき、買い物をしていただく、というような施設もあることを教えていただきましたが、これも一人の方が行うということは当然難しい問題が生じてまいりますので、ここでもエリアマネジメント組織が役立つと考えております。以上資料2に基づきまして説明させていただきました。

そこで、先程から出ております自由が丘でございますが、倉田先生がいらっしゃる前でお話するのは僭越でして、できれば先生に後ほど補足をお願いしたいと思います。先生からご紹介いただきまして、この12月16日に自由が丘のジェイ・スピリットで立ち上げの段階から積極的に地域の商店街の皆さんをまとめ、現在はジェイ・スピリットのまちづくり事業部をおやりになつていらっしゃる平井取締役から、短時間ではございますが、立ち上げるまでの背景だとか経緯、現在の活動、そ

れから現在抱えている問題まで、色々お話をいただきました。まちづくり会社を立ち上げる経緯と維持概要ということで、どうしてこういった組織の立ち上げが必要になってきたのか、でございますが、近隣との商圈競争・集客競争の中で、非常に落ち込みがあり、地域周辺の商店街にもう少し枠を広げた商店街と手を組んで、何とか自由が丘を再生しようと立ち上げたということでございます。そういった意味で、今現在藤沢駅周辺で抱えている課題にも少し似ている部分があるかと思えます。母体につきましては、商業者の方が中心となりながら、街並みや色々な問題もありますので、地域（住民）の方々にも入っていただいたということでございます。とりわけ、行政がどうのこうののではなく、地域商店街の方々が中心に住民を取り込む形で、まず自由が丘を今後どうしていくのか、というような議論から入っていったということでございます。話し合いをする中で、やはり行政との関わりも必要であろう、それから自由が丘を通っている東急線の駅があることから、交通事業者との関わりも必要であろう、それからインフラ整備といった問題からはライフラインの供給者にも入っていただくということで組織が立ち上がったということでございます。現在、ジェイ・スピリットは5つの事業部持っています。左の箱の②の部分ですが、まず、福祉事業部は、先程申しました託児所といったいわゆる、お子さん連れでも安心して買い物に来ていただき楽しんでいただくための施設運営を、民間事業者とタイアップして行っている部門でございます。それからカード事業部があります。また、地域の活動の中でホイップるんというマスコットを企画し、藤沢でいうかわせみくんですか、それを地域PRに大々的に利用している活動の事業部があります。それから広報部では、地域のPR誌も発行しております、例えばパンフレット、商店街の店舗紹介を掲載し、自由が丘オフィシャルガイドブックをつくっています。これについては当然これだけ立派なもので、長年培われた歴史と言いましょか、各店舗の方が心得られておりまして、自らの宣伝と自由が丘の宣伝に充分なっているという認識のもとに、一定のお金を出しあい、ジェイ

・スピリットで編集をしている、というような広報活動が行われています。それから最後になりますが、まちづくり事業部ですが、こちらは、街並み形成について、色々な取り決めをしています。例えば、ビルを建てるのに、建築確認をとるのですが、それと同時、平井さんはできれば事前におっしゃっていましたが、これは決して強制力がある訳ではないのですけれども、今地域では、自由が丘ではこうしようと皆で話し合っただけという形で、新たに自由が丘に来られる方、それから今自由が丘にいらして例えば店舗を建て直す、というような時に行政にもお願いして、自由が丘にはこういう取組がありますよ、ということをPRしています。例えば、壁面後退であったり、建物の中にふと安らぎが得られるような空間を建物の計画の中に入れていただく、それから、街並みの見た目の景観、といったものを計画段階からご配慮をいただきたいといったものです。この街並み形成のやり方は素晴らしいと感じてきたところがございます。これについて、自由が丘をこうしていこう、ああしていこうという議論は非常に時間を要するものであり、自由が丘の聞き取りをした中で特に事務局として痛感いたしましたのは、私共この平成22～23年度で皆様に基本構想・基本計画の立案をお願いしており、そして平成24年度以降は個別事業を期間等も明確にしながらそれぞれまちづくりを進めていきたいと、地域、市民の皆様と共に行ってまいりたいと考えておりますが、この市民力と言いますかタウンマネジメントは欠かせないものだということを痛感いたしました。また、平井さんのお話によりますと短期間でそうできるものではないということで、事務局といたしましては、この基本構想、基本計画をご議論いただいている最中ではございますが、できれば先行的に何かタウンマネジメントになるようなプロジェクトの打ち上げが、もし市民部会からのお言葉を、一定の話し合い等いただければ、先にご紹介させていただきました、藤沢市南北街づくり協議会（以下「協議会」）がございまして、南北の商店街の皆様が連合した組織でございますが、こういった組織へ投げかけさせていただくことも可能かというような思いもしてまいりま

した。今自由が丘駅前広場を整備しております。私はびっくりしたのですが、商店街としてはタクシーを止めたくないとおっしゃっていました。ただし、警察の方から、半公共交通的役割などを考慮し、話し合いの結果10台の滞留で広場整備計画はまとまったという話がありました。それから、新たな都市計画道路の整備といたしまして、ちょうど東西に補助46号線、幅員20m、と南北に127号線、幅員15m、この道路の着手が予定されており、とりわけ補助46号線については、折角つくった商店街エリアが分断されてしまうのではないかとということで現在も目黒区と色々な話し合いを持っているということでございます。また、ジェイ・スピリット（自由が丘バリューアップ倶楽部）では、とりわけ東急大井町線の部分には踏切が多いとのことで、地域の安全のため、（開かずの）踏切解消についても地域と東急と目黒区で取り組んでいるということで、非常に歴史を感じたわけですが、いっぺんに何でも取り組むのでは無く、スケジュール感を十分に大事にしながらすすめていけば、着実にできるものであると感じてきたところでございます。まだまだ勉強すべき点がございまして、倉田委員から補足をいただければというところでございます。以上、事務局から本部会への提起とさせていただきます。

柳沢部会長

はい。かなり大事な話が盛りだくさんで、特に後半のエリアマネジメントはもう一つの大きな山だと思えます。議論すべきことがやたらに出たという感じですので少し整理をしたいと思えますがこんなことでよろしいでしょうか。資料2の1ページの一番右の部分に、当面重点的に本日議論すべきことが出たと私は理解しましたが、上の3つです。回遊拠点・回遊軸整備をどういう方針でやるのか、ということをご少しはっきりしたい。それから、それに関わり関係すると思うのですが、集客拠点施設というものについて、配置を動かすとなるとそうできるかどうかは別として、既存ものを、そういう文脈の中でどうつきあってもらおうかという話は多分あるかと思えます。それと、やはり非常に関係がある交通処理の、あるいは施設整備はどの程度あるのかは分かりませんが、この3つを今日はセットで議論しましょ

う、というように理解をしました。それで、いっきにうしろの戦略7、3、4については説明がありましたが、これは次回にやった方が良いでしょう。それを合わせて戦略8を、今日のマネジメントと一緒に議論をするといったように、2回か3回に分けて進めてはいかがでしょうか。素材が充分かどうかは分かりませんが話題としては充分だと思いますので、そういうように、今日は前半の資料2の右側の四角で囲われている3つを主に議論するという事にいたしましょうか。自由が丘の話も色々聞きたい方もいるかもしれませんが、その話をするとそちらへ行ってしまいがちですので、次回以降でその辺を議論するようにしましょう。それでは、3つの四角の話題にある程度絞りながら、方針のようなものが2ページ以降出てきているようですので、この辺りを重点にご議論、ご意見いただきたいと思います。

今日は佐藤さんが初めてご参加いただきましたので、まずこの8つの戦略について、多少ウェイト付けをして、こういう狙いをこめて議論していくべきだということ、その方法論は全く無いのですが、こういうようなあたりはどうかというご感想を含めて、それから何か事務局からお願いをされているようですので、失敗例といましようか、こう狙いを定めて行っても失敗をしている例も沢山ありますので、そういう教訓も踏まえて議論した方が良いでしょうのではないかと思いますので、お願いします。

佐藤委員

ずっと出席できなく申し訳ございませんでした。一言お詫びをします。このテーマを追い求めておりました、と言えば格好良いですが、色々な状況を眺めておりまして、少し参考になるお話をしてみたいと思います。

まず、今、部会長からいただきました1～8の戦略、非常に私はよろしいのではないかと考えているのですけれども、実は12月の頭に鎌倉に行ってきたして、鎌倉の推奨品（鎌倉産品推奨委員会）というものの検定をやってきました。その時に鎌倉・江の島バッチ（鎌倉藤沢ピンバッチ）というものを鎌倉市の方が付けていました。（鎌倉市観光協会、藤沢市観光協会、江ノ島電鉄の三社共同作成）藤沢市も

欲しいということでわけているそうですが、皆さんはご存知でしょうか。

藤島部長

中峯部会員が時々付けています。先日、イベントで付けていました。

佐藤委員

観光協会の会員は、500円くらいで売るとかお聞きしておりますが、結局、江の島と鎌倉を一体化して人を呼ぶということで、観光の目玉をつくり、江の島は藤沢なので、藤沢市にも「一緒にやりましょう」と声かけをしてくださっていたものなので、少し安心しました。けれども、江の島までなのですね。そこで止まってしまうというのは非常にくやしいものです。そういう意味で1～8の戦略の中で、自由が丘の話は今回後回しということになったのですが、私自身が自由が丘の発想を、一回は取り入れてみたいと思っています。藤沢（市内のみ）のことを考えるのではなくて藤沢というのはどういう位置づけに持っていけるかということを考えてみたいと思います。隣に鎌倉があります。茅ヶ崎があります。その先には平塚もありますし、湘南の中で、ここはどういう位置づけの街になってくるのかということで、いわゆる、自由が丘が考えているような対都市間競争の中で、自由が丘はどのような都市にしていくかということ非常に明確な思想を持ってらっしゃるのです。

個人的な話になりますが、もう20年くらい前に私がお手伝いしている会社が自由が丘にお店を出されまして、あそこの商業の厳しさを、身をもって体験しております。それは何かと言いますと、集まってくださる消費者の目と言いますか、来街者の目がものすごく厳しいのです。結局、求めてくるものが、いわゆる自由が丘らしさを求めてくるのですね。それを裏切る街をつくってはならないというのが、あそこの基本的な姿勢なのです。ですから私共がお店を出すにしても、あそこに合っていないようであれば、お客さんがさっと離れていってしまうので、以外に、お店の寿命が短かったりするのです。そういう逆の面から、消費者の目が厳しいというところを私自身感じてきましたので、あえてこの藤沢においても、では、ここはどのような位置づけで選んでもらえるのかという所を。改めて、これまであるもの、

無いものを含めて、自由が丘の場合はあるものを非常に大事にしようとしている。先程の資料にも書いてあるのですが、これに対して藤沢はどうか。新しくつくっていくのか、あるものをいかしていくのか、そのあたりももう一回、藤沢らしさと言いましょか、文化・エンタテイメントの中でも考えていきたいと思います。それらが、戦略1の商業地の回遊性になるのか、それとも戦略6の交通問題になるのか分からないのですが。

そういう意味では、鎌倉と一緒にやろう、と言ってくれている。当然茅ヶ崎は茅ヶ崎で独自でどうしようとなっている。では、この3つの関係とはどういう風に、回遊性ではないですけども、輪ができる状態をつくっていくのかなと、この辺りも、やはり私共としては考えていく必要があるのかなと思います。

車、公共交通機関を利用して、多くの方がぐるぐる廻る、その中で中心はどうなるのか。そんな位置づけも是非議論できたらと思います。それから、集客施設についても非常に大事なことだと思っております。それは何かといいますと、私も藤沢でお手伝いしはじめてかれこれ30年ほど経つと思うのですが、30年前といいますと今とは随分違いまして、当時はまだ宿場町的なイメージもあったし、銀座通りも相当人が歩いていた。それからなにしろ西武がありましたから。藤沢ですごく百貨店が沢山あるのだな、という時に藤沢に来たのですが、それが横浜に客を奪われ、観光客は鎌倉と江の島に行ってしまう、藤沢に出てくる人もだんだんいなくなってしまったということで、街がどんどん集客力を失ってきた現状を見てきておりますと、建物を整備するだけでなく、やはり藤沢に実際に来なければいけない、何かその目玉が欲しいと、皆さん考えているのですよね。でも、建物は既にあるのですよね。ホテルもあればコンサートホールもあるし色々なものがある。だけど、ここに何しに来たら良いのだろうか、そういうものが実は欠けてしまったと思うのです。ですから住んでいらっしゃる方もファッションだとか何か良い物が欲しいなといったら、どうもその経験からいいますと、皆横浜にとられてしまっ

たな、という感じで、近隣の生活必需品だけは地元で買ってきている。でも良いものは皆、いつてしまったなど、そんな寂しさもあります。

では観光客はどうかといいますと、観光の目玉が無いですから皆素通りしてしまう。どうしてもここで降りて何かしてくれない、とそんな寂しさをずっと何年も感じているわけですが、全国漫遊している旅の中で、ある意味成功例と失敗例を少しだけお話したいと思います。

非常に成功したのだけれども失敗してしまったという例で、青森県立美術館という所があるのですが、あそこは多分、文化・芸術に興味のある方しかご存知無いと思うのですが、目玉を入れたのですよ。県知事の鳴り物入りでシャガールの舞台絵（マルク・シャガールのバレエ「アレコ」（1942）の舞台装飾背景画（第1、2、4幕）3点収蔵。1点約W15m×H9m）という本当に大きい、布製で、全部で4枚あるうち、3点を買ったのです。そして常設で展示してあるのです。その県立美術館がオープンした当時はシャガールの舞台を上演してお客さんが沢山集まってきました。で、年に1回ぐらい展示に合わせて上演するのかと思っていたら、廃れてしまっていて現在も活動されていません。折角、あるものが、当初来たのだけれど、あまり使われなくなった。今年は12月4日に新幹線ができましたから、何かやるかもしれないと、逆に期待したいところなのですが、折角のものを持っていながらいかしきれていません。そういう意味では、もったいないなと思います。

もう一つ、今一生懸命見出そうとしているのが、これも青森県なのですが、北の方に十和田があります。十和田は今ではどうしようもない街になってしまいましたが、かつては十和田湖観光の基地だったのですが、十和田観光自体が気候として寒いですし、交通の弁も悪いものですから、観光客を奪われてしまったのです。それで、改めてまちづくりに取り組みだして、まだ街は整備されていないのですが、目玉となるもの、美術館をつくられたのです。（十和田市現代美術館）美術館に目玉

の展示物があるらしく（21人の国内外現代アーティストによる恒設展示22作品が「アートの家」として展示されている。また官庁通りはアーツ・トワダ野外芸術文化ゾーンになっている。）私はまだ行っていませんが、毎日曜日か週末になるとそこに2～3千人と人が集まってくるらしいのです。確かに私が十和田に行っている間みると、「学生さんなんか集まっているね」「何かイベントやっているらしい」と、人が集まってきているのです。そこまで成功しているのですから、市役所ですとか商工会議所等が何を考えているかということ、折角2～3千人美術館が集めてくれている人達を、なんとか街の中へ回したいと考えているのです。その第一段で、街角ストリートではないですが、各ウィンドウに色々なアートを飾ってみたりしているのです。それは一過性で終わってしまいましたが、改めて、街を歩ける街にするにはどうすれば良いかを一生懸命考えているのです。恐らくこれから十和田も変わるのではないかと考えています。ここで一つ、人の集まる施設をつくって毎週人を集めてくれるというのはありがたいことだなと、一つしか無いからというようなものでもないと思うのですけれども、奥入瀬とか周辺へ、十和田を經由しながら散らばっていく。そして、十和田が今年挑戦したのが、実は牛バラ焼きというB級グルメだったですね。厚木で（B-1グランプリ）やって確か八位くらいに入ったのではなかったでしょうか。そういう意味でも一つ話題になってきているのではないのでしょうか。

こういうことで、文化・エンタテインメントとは、一体何を、ここで藤沢らしいものを、さすが藤沢だな、といわれるものを、発見できるかということになると考えています。前回メモをつけさせていただいたのは、私自身も湘南のイメージを持っているのですが、湘南の中でも藤沢の違いは何かということ、仕事上から思い浮かぶのが、歴史資産としては遊行寺がありますが、それ以外に、文化的要素・科学的要素のイメージがものすごく強いのです。一つは、慶應湘南キャンパスがあります。湘南キャンパスというのは一時、今もだと思いますが、日本の中では世界に通用す

る数少ない大学として評価された学部があるのです。英語でも授業を行うし、水準も高い、会津大学、湘南キャンパス、とあと一つと、三本の指に入るくらいの評価を今でも得ている。それで、情報工学を中心に環境工学等を有し、世界から注目されている所。教育文化というか学問、最先端の学問をやっているというイメージが私は強いのです。もう一つ強いのが、今の日経あたりでも評価されてきているのですが、IBMさんの研究所がありますよね。今IBMさんじゃないですけども（日立グローバルストレージテクノロジーズ）今でもその研究所があるのだそうで、昔のシンクパッドといいますか、小さいパソコンをつくったところが今でも研究を続けている。シンクパッドは今レアものになりましたけれども、純日本製なのだという逆の表現ができ、ということは藤沢製なわけです。そう考えると藤沢はひよっとするとハイテクの最たる市なのではないか、基礎研究が非常に進んでいるなど。

実は商工会議所に寄って来ましたが、藤沢の工業の皆さんに何をつくりたいですかときくと「俺達はロケットをつくりたい」とおっしゃる方が何人もいらっしゃいます。そう考えていくと、世界に対して、藤沢はこういう一つの文化ならぬ科学、ハイテクの街だということのイメージを、何か文化・エンタテインメントの中でつけれないかと、これも一つの他の都市、湘南には無いものとして売り込みになるのではないかと、実は考えています。

あと、ここに書いてあることは全くこのとおりだと思いますので、是非、そのものをつくるのであれば、そこで一体何をするのか、必ず施設とソフトと合わせた形で、ソフトが先だと思いますが、そこで何をしようか、だからこういう施設が必要だ、ということこそ是非とも考えていただきたいと思います。昔から藤沢で一年に一度やっているのが多分有名だと思うのですが、藤沢の市民オペラ、これは何十年も続いていらっしゃる。このあたりでも、もっともっと市民と一緒に輪を広げる方法もありますよね。かつて墨田区が千人の第九などもやりました。毎年こういう演目で色々なオーディションも行い公演しますよ、というような一つの市民文化をつく

っていくのも手だと思います。そうすると、それをやるためのオペラ会場が必要になるとか、これも一つの外からの人達を接待するという事に繋がるのではないかと考えています。そのような既存のものも逆にうまく利用できるのがまちづくりではないかと考えています。

ということで8項目のコメントはこのくらいにしまして、先程、世の中うまくばかりはっていないという話を少しして欲しいといわれましたので、私が知っている限りというものではないのですが、このように苦労しているという例を幾つか紹介させていただいて、こうならないように藤沢では是非ともすすめていきたいと考えて思っております。南の方もあることはあるのですが、南の方は逆に徳島等、やり始めているのですけれども着手できていない所ばかりです。人もいなくなってしまう、かつ、お金も無い、市長がのろしを上げるも潰れてしまった等なかなかできない例ばかりなので、実際にある程度補助金等が投入されやすいとなると結構北の方が多いです。

よく有名なところでいきますと、先程自由が丘の景観条例が出ましたけれども、同じように街のイメージを一つにつくってしまおう、と行ってみたのが青森県三沢町です。三沢という所は、日本で二番目に基地面積が大きい街だそうです。沖縄に次いで広い米軍基地がある所です。私も実際に入ってみたことがあります、めちゃくちゃに広いですね。「ここで携帯電話をかけますと全て傍受されますよ。」と言われましたけれども、そのぐらい大きな街です。これだけ米軍がいてアメリカ文化がいきとどいている街なので、一つこれを題材にして外から人が来るような街をつくろうと、三年程前からまちづくりを着手しました。そして基地の前、門の前の商店街を全て再開発しましてアメリカ村をつくったのです。この景観というのが、まさにアメリカのタウン、街をつくろうということで、お店もアメリカのタウン的につくって、英語表記をしなさいと、ですからBANKやEXCHANGE、BARBER—SHOP、LIQUOR—STOREだとか全部横文字で書いてあるの

です。こう見るとさすがアメリカだな、ということでびっくりはするのです。その象徴たるものとしましてMGプラザというショッピングセンターといたしましよるか集会場といたしましよるか、大型施設があります。ただ、残念ながら外からみてお邪魔して感じることは何かと言いますと、ハードをつくと確かに話題になるのですけれども、MGプラザに入った時に、この街ってどんな街かという、お知らせするものが何も無いのですね。今は航空祭だとか、イルミネーションを綺麗に飾り付けしまして夜とか週末になると、なんとか人が集まるようになってきました。MGプラザはショッピングセンターのようなものですが、入店者がいなのです。やっと一年位経ちまして「和民」が出店してくれました。これで夜、人が集まるようになったと言われるくらいでして、いざ交渉に入っていくとなかなかそういうイメージが定着しない。改めて今、市と商工会議所・商工会が考えを新たにしまして、外国人の方がチャレンジショップとして出店するのを支援しようだとか、ここの街は米ドルで買い物できるようにしようだとか、改めてソフトを今考えています。ハードをつくってしまったのですが、それだけでは人は来ないですね、ということが良く分かったのですね。改めてアメリカというものが、アメリカの文化というものが何なのだろうか、せめて週末になったらアメリカの人達が集まってきて歩いてくれる、そういうものができないかと、そんな段階に入ってきたようです。だいが議会もMG（当初事業主体としてつくられたMGインターナショナル(株)）については一年近く活動をしていませんので、資金等そろそろ限界でやり直しに入るといふ噂も聞いています。

十和田は先程も話しましたがやり直しの段階です。

それから意外に、上（北）の方から降りてきて面白いと感じるのは八戸ですね。八戸へは私も行くのですが、新幹線の駅と八戸本来の市街は車でも20分くらい離れています。ローカル線で八戸へ降りましてそこから「本八戸」という所へ行くのにも、それでも十数分かかるのです。そして本八戸の駅で降りても街並みは殆どあ

りません。その八戸は、昔から中心市街地活性化ということをテーマにあげているのですが、中心市街地の活性化以前に、卸売市場がそこには昔からありました。卸売市場＝浜の皆さん達が一時追いやられて郊外に八食センター、八戸総合食品センターという小売りを兼ねた卸売りの場所、いや小売りがメインのショッピングセンターのような施設を水産中心につくったのです。そこはすごい集客を持っています。なぜかといいますと八戸そのものは水揚げがこうなのですが、北陸、東北、北海道までの海産物はここに来れば何種類も安く買える、というキャッチフレーズをつくりまして、基本は地元以外から人を集める。そこでうまく活用したな、というものが新幹線です。今年は新青森打ち出しになっていますが、東北新幹線を使ってこの時期になりますと毎年のように、買い出しツアーというものを行うのです。片道一万円程だったでしょうか。片道一万円、そして八食に行きますと全国一律五百円の送料です、というようなことでえらい買い出し客が押し寄せるのです。これはもう完全に目玉です。ですから、当初つくられた八食センターが、どんどんどんどん増築を重ねまして今二倍くらいになっているようです。今やそこでは、買ったものをその場で焼いて食べられたり、回転寿司ですが、地元の方もここの回転寿司は美味しいというもので、私もびっくりしたのですが、幻の魚イトウというものがいるのですが、これの回転寿司があるのです。一貫七百年ぐらいするのです。このようなものが食べられる場所があるということは素晴らしいですね。そういう一つの場所を八食センターは八食センターでつくっており、やはり、お客さんは八食センターとまりなのです。街の中には来ない。ですから街として、八戸市内に新しいものをつくっています。

その代表で全国まねし始めたものにみろく横町があります。みろく横町は、実は通りと通りの間を飲み屋街でつないだものです。それがうまくいったので、全国にたぶんなるかと思いますが、八戸へ見にきまして皆まね始めている、というのが一つ大きな特徴かと思っています。

これは良い面と悪い面とあります。みろく横町とは、従業員が一人というような本当に小さなお店をたくさん横町に配し、だいたい座って2〜3千円くらいあれば一通り飲めるというような所なのです。当初目的は、みろく横町をつくった皆さんというのは夜の商売の人が結構多かったのですので、ここでまず第一次会をして、そこから街の飲食店へ行ってくれるでしょうね、ということをつくったのですが、できたとたん二次会にまでいるような、恐ろしい場所になってしまいました。もくろみが外れたよ、と夜の街の商売をしている方がおっしゃっていましたが、観光の目玉にはなっています。必ず八戸に行ったらあそこに行こうよ、というようになっています。それはなぜかといいますと一店舗ずつがチャレンジショップのようなものですから、若い人達が一生懸命接待をするのですね、面白いのです。ですから東北の中でどこに泊まるかといったら、あの辺でしたら八戸へ泊まるようになりました。八戸には夜があるのです。夜が楽しい街として八戸がある。それに比べて他はどうかというとあまり無いのですね。そういう面では上手く夜の街というものをこれからつくろうと、またそのようなきっかけとして面白い街づくりになるかと思っています。それが裏と表と両方ありますので、それを良いとみるのか悪いとみるのかというのはまたこれからのまちづくりの参考になるのではないかと思います。

それからあと、もう一つだけ青森で面白い例をあげますと、東北新幹線が通り今燃えているのですが、弘前があります。弘前というのは感交劇場というキャッチフレーズで東京からコンサルを招きましてつくりました。カンコウとは遊びに行く方ではなくて、感覚が変わるという方で、市街地は一つの舞台であるということで、そこで色々やって人を楽しませてあげましょうということで、一大構想のもと今でも行っています。恐らく新幹線が通りますと、そこから新青森にとまって、ぱっと行けるようになりますから、弘前は非常に有利だということで動いていらっしゃいます。観光で来た人、青森市以外の方を全部呼んでしまおうと、そんな構想で最初つくられて、商店街を綺麗になおしました。特に力を入れられましたのが、弘前駅

から街まで歩いて行ける遊歩道ではないですけど、周りの道を全て整備されたのでした。残念ながら人が誰も歩いていない状態になっていまして、夜になりますと高校生がちらほら歩いているくらいでしょうか、そんな所になってしまいました。実は、感交劇場というのは一つの大きな構想ではあった訳ですけども、何をやるというのが具体的に無かったのです。確かに舞台はつくりました。それで誰が何をやるの、といったものが考えられていませんでした。例えば街の一角に広場があるものですから、街中芸術ではありませんが弘前大学の学生だとか色々な市民グループにここでエンタテイメントを行っても構いませんかと尋ねると、市の当局から、使ってはいただけませんと回答をうけ、もう、規制だらけなのです。一体何したら良いの、という状況なのです。ですから、まちづくりとしては面白い試みでしたけれども、それから使える要素、昔の洋館など色々なものがあるのですが、そこにもう一つ欠けているものが弘前の場合は、ストーリーなのです。ストーリーだとかソフト面。どういう風に人を楽しませようか、そのものが欠けてしまっているものですから器をつくって確かに綺麗になったのですけれども人が歩いていない、というような寂しい街になりつつあります。これから東北新幹線開通に向けて何か新しいものが出てくると思いますので、逆に皆さんに注目していただきたいと思います。

南の方でも、中小企業基盤整備機構がよく成功事例としてあげている所は皆失敗しているかもしれないね、などと話すのですけれども、話をあげたらきりが無いのでごく最近の事例として、北の青森県には申し訳ないのですけれども、相当補助金が投入されているものですから、補助金の皮肉を先に述べさせていただいて、私の過去3回の反省に替えさせていただければと思います。

柳沢部会長 はい、どうもありがとうございました。それでは、主に参考資料も含めてこちらの資料2の2～4ページあたりを重点にご議論いただきたいと思います。

神田委員 はい、それでは質問と言いましようか、前回も出たと思うのですが、2ページの所に歩行者ネットワークの図が載っていますが、回遊軸となりうるものとして遊行

通りをどういう風に捉えているかを、おききしたいです。この幅員だとか、都市計画道路で今できあがっている道路ですが、歩行者中心の、一方通行になっている道路ですが、これなどはどう考えていますか。南口の方で例えば橋通り。これなども人の流れとして西側の方から全然出てこない、半分半分とも思えるのですがどういう風に考えているかよく分かりませんので。

事務局

まず遊行通りですけれども、これは先程佐藤委員からもお話いただきましたけれども、遊行寺を重要な拠点として考えております。遊行寺に行くための、車道もブロックで舗装され景観上非常に素晴らしい道路になっております。そういった意味で遊行寺までの回遊軸と併せまして事務局として、少し先走っているかもしれませんが国道沿いに音楽学校がありますので、そういった施設と遊行寺、それから藤沢市で今整備を急いでおります北口通り線、ちょうど駅のデッキから点線で直線に延びているこれが北口通り線、ここにも一定の商業が予定されておりますので、これらを藤沢駅北側の回遊ゾーンというような位置づけをしたらどうなのかと考えております。それから、南口の橋通りでございますが、確かにここは歩道がございません。大きい通りの一皮西側ですけれども、この通りにつきましては歩道がございませんが、駅から歩くと小さな飲食店が連続してあるということで、路線を考えた時に夜の界線的なゾーンとして楽しめる、界限ルートとして、既存ストックをいかす面からも考えているものでございます。

神田委員

今の疑問は、ここで表現しているように、どちらかというところ項目に入られておいた方が良いのではないのでしょうか。

作業班 森氏

作業班からですが、イメージとしては少し考えております。例えば、先程いった遊行通りについては、ハードの方は非常に良く整備されております。ただしステップ（段差）が多いですが。レディオ湘南があつたり、閉館はしてしまいましたが、映画館のストックがあつたりしまして、この街の中では少し特徴がある通りだと思います。ただ、今のところはハードが先行してしまいソフトが無いような状態にな

っています。それから、界隈性ということについて、ここでは歩道ということの色を塗っているので、橘通りが抜けており、また、そんなに交通量が多い場所ではないのであらわれていませんが、これから構想編に向けては良い種地として意識しています。歩行者空間の整備状況図などではそれが見えませんが、イメージしてスタディしています。

村上部会員

遊行通りの当事者として、私はこの通りの商店街がモール化する時から関わっています。23年になりますか、その時からずっと関わっております。昔、ここは遊行寺の参道ということで、かなり袖と袖が擦り合う程、人が通ったそうです。その頃を私も知りませんが、そういうような状態で、街自体はそれに追いつこうとして、少し簡単にできた街だと思います。そしてあまり手をいれていませんから、まず道路を整備しましょうということでした。そしてここは藤沢停車場線という県道なのですが、とりあえず遊行通りだとか、遊行通り4丁目商店街、遊行通り5丁目商店街で歩道、モール化ということをちょうど23年前行ったのです。

そのあと、色々ソフトの面で行ってききましたけれど、住んでいる方々、商売をやっている方々、特に住んでいる方々は、比較的小子さんがいない方が多いです。跡継ぎがないということもあって、お店をやっていく意欲と言いましようか、続けていくというものもかなり低下していると思います。新しい人が入ってきて、その方がこれから頑張ろうという方も2~3いますが、精神的な面でかなり弱気な方が多い様な気がします。たまたまそういう中で、私自身は商売の場所の立地面も含め投資しても良いと考える場所ですし、そういう意味で非常にやりがいのある街だと考えています。また今、若い人が集まりをもち始めまして、30代、40代の方がこれから色々なソフト面をやっていこうという段階に入れました。ちょうど軌を一にして、若い人達がまちづくりに相当参加してくれるようになると思います。

私の考えとしては遊行通り4丁目商店街、遊行通り5丁目商店街一緒に、若い人が集まって議論してくれることは良いことだと思います。さらに遊行寺に向かって

協力体制が全部できれば一本の通りとして、遊行寺をテーマにしてまちづくりをすすめていくと、その様な考え方を持つのも良いかと思っています。それと、60年続いた映画館、閉館してしまいましたが、NPOの方が、古い映画を上映しながら人が集まれる、サブカルチャーをよりどころにする考えで今、新しいかたちで映画館を復興させようと、活動をはじめようとしていますので、商店街の者として、応援しなければならない立場になってしまい、来年になりましたら、そういう活動がはじまると思います。

ここのところかなり来街客が減っています。というのは、北口通り線の工事の遅れ、それと、北口全体、今申しました映画館も含め、銀座通りのダイエーも閉めていますし、集客力が減っております。この間、モール・フィルへ孫の着るものを買いにたまたま行ったのですが、朝10時の時点で駐車場がいっぱいでした。そして中に入ったら袖を擦り合うように人がいっぱいでした。そのあと、帰ってきまして小田急百貨店の上で食事をしたのですが、そこからペDESTリアンデッキを見たところ、人通りは、暮れですがぱらぱらという感じでした。これほど差があるのか。いかにモール・フィルやミスター・マックスに人をとられているか。私共の遊行通りを含めて、藤沢駅周辺の街が魅力のないものと消費者には受け取られていると、我々がもっとしっかりまちづくりを考えないといけない、と感じました。

柳沢部会長

はい、ありがとうございます。この2ページの部分がありますね。これは、歩道のある道路を引っ張り出した訳ですけども、それと現在の歩行者の通行状況とこの緑色の点線のところは、もう少し人が通りやすく補強、整備が必要というニュアンスですか。

作業班 森氏

今は、現在の道路空間のストックと、人通りの多いところ、少し周りに特徴的なお店等があるところを重ね合わせています。資料2の2ページ、3ページ、そして4ページの右現況の駐車場の配置を重ねながら、左の図では車からうまく回遊性の

ある緑の点線のルートへ流せるように、幾つかの要素を重ね合わせて、緑と茶色の車と人の動線の仕分けとしてあらわしています。

柳沢部会長　　つまり4ページの左の図の緑の点線のようなこういうネットワークになるのが望ましいとっているのですね。今必ずしもこのようにできていない。充分ではない。この辺が皆さんの実感からどうか。もしこういうことで進めるとしても、少しなんというか、ハードな手当をしていかないと、こうはなっていきませんよね。そうすると、こういうことを実現するためにここをこ入れしなければダメだというストーリーが欲しいと私は思うのですけれど。この中心商店街の歩行者ネットワークの整備は、こうした狙いですめるために、こことここがネックだ、だからこう手を入れていこう、とそういうストーリーがあるのでしょうか。

作業班 森氏　　パワーポイントでその辺を少しスタディしたものをご用意しています。

事務局　　まだまだ、事務局でも決めかねているものですが。

柳沢部会長　　それにむしろ、皆さんのご意見を入れていただければ良いのではありませんか。神田さんの言われたルートも入っているのでしょうか。

(パワーポイント)

作業班 矢野氏　　それでは作業班からたたき台のご説明をしたいと思います。先程の資料2で検討の進め方の右上に3つの戦略ということで、回遊拠点・回遊軸整備しましょう、集客拠点配置していきましょう、交通施設整備していきましょうという話で3つの視点と方針をあげさせていただきました。それをアイデアと言いますかシステム的な考え方の部分を事務局より説明いただいたのですけれども、それをもう少し地域におとして、具体的に話していきましょうということで、このパワーポイントをつくっております。

最初に、回遊拠点・回遊軸を整備しましょうということで、今藤沢駅、3線合わせて1日30数万人の乗降客があるということですので、そこに折角人が集まっているので、街の中に引き出していきたいということを考えていく必要があるでしょ

う。そういう意味で重要になるのは、乗降客の中でも今は単に鉄道を乗り換えているだけの人もいますし、駅を降りてもバスにそのまま乗って帰ってしまう方もいますので、その方々を街中に引き出していきましょうということで、まずその中で一番重要になるのは、JR、小田急、江ノ電、それぞれの出た所について、何か魅力のあるもの、街の情報、そして快適な空間、そういうものをつくって行って「良い所だな」「是非街へ行ってみたいな」というような作り方が改札を出た所で必要になってくるでしょう。それから更にそこから北口や南口へ出た時に、駅前広場とかデッキですね。こういう所がまず回遊拠点になると思いますので、非常に魅力的で、快適な過ごしやすい空間にする必要があるでしょう。そこから皆さんに回遊を始めていただきましょう。例えば北口につきましては、この部会の第2回でお示ししましたけれども、コアゾーン、サポートゾーンという話をしましたけれども、ちょうどそういう区域を中心に、北側あるいは南側のこういう区域に回遊していただきたいと考えております。まず出発点がここ（駅）、それから北と南に分かれてそれぞれこういうところ、更に北と南を回遊するだけでなく、回遊になる場所を繋いで、この軸を太くしていくようにして、南北を一体とする回遊動線ができてくるでしょう。そして単に回遊軸をつくったとしても人は動いてくれませんので、目的地となる場所が必要でしょうということで、これについては、資料2の3ページ、参考資料編8ページの図のように、こういう施設が目的地になってくるのではないかということです。赤で示しているものも既存のもの、一部計画のものも示していますが、大型の商業的施設にも人が集まってくるでしょうという話。それから、青のホテル・宿泊施設、リラホールをはじめとします文化的施設というものもあるでしょうし、あるいは行政施設、市役所とか周辺にありますような施設、こういうようなものは既にあるものですが、こういうところについても人が歩いて来る目的地になるということで、示させていただきました。こういうものをある程度うまく繋いで、回遊が生まれてくるのではないかということです。単に今ある

ものだけではなく、先程お話しが出ましたけれども、遊行通りですね。そういう所を中心としまして、閉鎖した映画館はありますし、FM局もあります。それから近くに音楽学校がありますし、楽器店もあるということで、アート、芸術関係のものがある程度集まっている場所となっています。こういう所について、ある程度、魅力のあるゾーンづくりということで、考えていったら良いのではないのでしょうかという提案をしております。これも先程出てきました提案ですが、やはり界隈性のある通りですね。比較的道路幅員もそんなに広くなくて、歩道は無いですけど、そんなに交通量多くなくて、歩いていくのには非常に良い通りということで、こういう所も界隈性のある良いゾーンということで、何かまちづくりの種にしていった、特色あるゾーンをつくっていったらどうかというところでございます。それから今、もう整備は進んでおりますけれども、駅の北口の地区ですね。ここにきましても、整備していくものについては魅力ある、特色ある機能というものを今からでも配置していくことが可能なのではないかとということで、今後のゾーンとして、こういう場所や地区をうまく育てていく必要になってくるのではないかとことです。こういうものが回遊ゾーンの中でうまく広がっていくと、あるいは新しくできていくと、そしてどんどん目的地が出てくるのではないかと考えております。それで、3点目の交通施設について、やはり駅や駅前広場に人が鉄道やバスを利用して来る。当然、送り迎え等もあるでしょう。そういう車の交通はどうしても対応してあげる必要があるでしょうということで、広域的な幹線として国道などはありますけれども、それに対して処理する道路として、この茶色で示した道路ですね、こういうものが南北でそれぞれ考えられるのではないのでしょうか。ここは歩道もちろんありますけれども、自動車交通を主に処理していく路線として考えていくのではないかと思う訳です。駅前広場へ行ったり、この地区内を車でサービスするにしても、車の路線として考えています。そうして、こういう所で車を交通処理していくことによって、回遊空間、歩行者中心の場所をつくっていきたいということで

す。 もう一つ、車の駐車場というものがありますけれども、ここの参考資料8ページに載っているかと思えますけれども、この破線の丸で書いた青い部分です。幸いこの駐車場につきましては、比較的商業地の周辺に大型の施設が増幅しているということで、これをうまく使っていくと、こういう所まで車でいらして、そこで降りて、街中を回遊していただく。それで、こういうところの周りに駐車場が多いということで、中の部分ですね。これについて、比較的歩行者中心の街並にしていけるのではないかと考えています。 新しく緑の線が出てきましたが、こういう所を回遊軸として、まだこれは案ですけれども、考えていけば良いのではないかと、こういう主要な施設を目的としながら、北側の回遊、南側の回遊、こういうものが充実していけば、全体が回遊できるようになるのではないかと、このように考えています。以上でございます。

柳沢部会長

はい。今の話も含めてご意見、ご質問ありましたらお話しください。倉田さんそろそろお願いします。この先どうしたら良いでしょう。これをもう少しテコ入れするにして、今日の話だとパワーが弱いですよ。

倉田委員

現状認識として、少し細かいことなのですけれども、この銀座通りですか、こういう所は、この範囲内でとめてしまって良いのでしょうか。逆に、銀座通りは先へ繋がった通りで、歩いていくと自然にあそこまで行ってしまうのですよ。連続している通りなのですけれども、何だかこう不自然に回遊性を絶ってしまうというのには何か意味があるのでしょうか。意外と自然に、人が流れやすい通りなので、車は通っていますけれど、比較的将来的にもあの通りは逆に言うところに入れすべき通りになるかと思いますが、意外と駅に近い所ですね。

というのは単純に私が街をウロウロした時の印象ですけれども、あの辺の回遊のネットワークの中にあまり位置づけられていないのが気になりますね。意外としつかりした通りで外まで延びているので。しかしながら、ああいうように外れているという問題があるのですけれども、基本的にハードの整備といいますと、今ある道

路をどうするかという、交通の問題も含めてネットワークをどういうようにつくりあげるかは考えなければいけないですけど。いずれにしても回遊性を実現しようとすると、少なくとも回遊する先、ある意味では目的となるような場所がやはり無いと、いくら道路を整備してもそう簡単に人は回遊してくれないということがありますから、何かそこに戦略的に、駅の周辺はもちろんですけど、そこから要するに回遊性を、より地区内に高めていけねばならないでしょう。駅の周辺だけをウロウロされても困りますから。

ということは、もう少し先に目的なり、興味を持てる対象の必要があると思いますし、それが場合によっては、回遊の対象ではないかもしれませんが、公共施設か何かがあると必然的に、つまりそこに学校があったりしてそこへ行くと当然そこに人通りがあるというような、そういう自然に人通りの流れがある場所があれば、今度はそこでとどまる場所があれば良いのですから、そういうことを戦略的に幾つかの通りに対して考えると同時に、通りに対して多少ストーリー的なものを設定し、なおかつ、単なるストーリーをたてれば良いかというところではなくて、少なくとも手掛かりとなるシーズ（種）があれば良い訳です。

先程の遊行通りについてその話を伺った時に、少なくとも可能性があるのではないかと思います。少し駅からありますけれど、さっきお話があったように、閉鎖されてはいるようだけれども、映画館があったりとか、専門学校があったり、幾つかのシーズがあつて。

村上部会員 柳通りまではペDESTリアンデッキがあつて、駅からまっすぐのびているので、ここまでは人が流れているのです。デッキを降りてこの先に来るには、目的とする場所が無いと、あるいはもっと魅力的な場所が無いと人が来ないと思います。

倉田委員 ハード的な面で言うと、デッキから降りるといのはなかなか難しいですよ。かなり心理的に、あそこを降りてみようとするにはね。

村上部会員 そうでしょう。ですからあのデッキをもっと先まで延ばしてみたらどうかという

ような意見もあります。

倉田委員 どこかでは降ろさなければならぬでしょうけれどね。

藤島部長 説明いたしますと、ここまでが柳通りで、ここが銀座通り。この先は南仲通りで、実は藤沢本町まで繋がっています。途中で労働会館という市の公共施設がありまして、こちらに少し大きい敷地があります。先日開催された委員会で長瀬経営企画部長から説明があったと思うのですが、県立藤沢高等学校が用途廃止されまして、今、地元の方々等からNPOが運営する美術館にしてはどうかという提案がございます。それと併せて、この辺一体は昔からの藤沢発祥の地でございますから、地区の公民館・市民センターをこの敷地を使って整備したいという話が現在ありまして、恐らく、今策定中の総合計画に明記されてくると思います。従いまして、ここはかなりの良い通りではあります。駅から藤沢本町までの、昔からの藤沢宿の方へ行く道なわけで、重要な軸と捉えております。また、それと併せて先日の委員会で長瀬経営企画部長が申し上げておりましたように、遊行寺とこちら、藤沢宿の要でございますので、こういうルートは何らかの位置づけをしようと考えております。

倉田委員 問題は自転車ですね。

柳沢部会長 この間、一回りしてみましたけれど、この辺の古い米屋さんや蔵、なんかがありまして良い雰囲気でしたね。

藤島部長 建築系の若手の職員が、「蔵前通り」の景観整備について昔からスタディしてました。景観整備の為に絵は幾つかパターンがございます。少し前までは、この国道467号の渋滞が激しかったのですが、近年交通安全事業で道を広げ、更に電柱の地中化を行いました。その影響で、整備した所が歩きやすくなりました。昔は、蔵前通りの方が交通量も少なく非常に歩きやすいということでしたが、でもこちらにある遊行寺の方に向かって、この方向に藤嶺学園の生徒がぞろぞろぞろぞろいっぱい歩いています。界限性といった点ではこちらの方があると思いますし、従来より、景観整備の観点から、市としましてはこの通りを重要視しています。

倉田委員

先程お話しがあったように、そこにサブカルチャー的なものを戦略的に少し集める考え方があると思います。先程のお話しですと後継者がいらっしやらないところもあってということですが、ですから、その辺りというのは少しその方達が先を考えるというのは大変なことなので、やはりそれは、そういった方達がお持ちになる不動産をどう活用するかということで、例えば利用する側にあたって、もう少しプロデュースの感覚を持って、まさにそれは、TMOでも良いのですが、逆に言えばそこを一つのプロジェクトとして、そういうことを考えたい方、活動したい方、色々いらっしやると思いますので、そういう方達のマッチングを行って、それを戦略的に色々そこからイベントなどをうったりして情報発信していくと、自然にその通りのイメージができてくると思います。

そうするときに、例えば専門学校を巻き込んだりして。そういう事に興味を持つ若い方がいるわけですから、その辺はそのへんで少しそういう可能性があるのではないかと伺って思いました。それぞれの通りに少しそういうストーリーを、全部をおしなべて同じようにするのは難しいでしょうが、そういう可能性が少しでもあるので、そういう所を少しずつ充実していくことによって、最初に道付けをすると、後が良い循環がおこると思います。

村上部会員

今おっしゃられた話を若い人が聞くと、非常に元気付くと思います。遊行通りは今までのまちづくりでは、非常に遅れをとっていましたが、皆さんのやり方次第でどうにでも変わるということ、若い人にお話ししていければと思います。

藤島部長

あと、この通りは、ここに歩道があるのですが、だいぶ街路樹が老齢化しておりまして数年以内に更新しなければならない状況になると思います。そういう時期を迎えておりますので、そういったある種のテーマ性と駅からのこの動線を、街路樹でそういうようにつくっていくかによって、多少何らかの機運ができるのかと思っております。アオギリ等を植えているのですが街路樹が相当倒れそうですから、更新する際に何かテーマ性のあるものに植え替える事も可能だと思います。

倉田委員

それとあと、既にあるでしょうけれども沿道のマンション、それらはこれからも出てくる可能性がありますよね。そうした時にきちんと誘導して、特に低層階を少し工夫するようにするというので、逆にそういうところに意外と住宅とマッチしたライフスタイル型のお店が入ってくると、全部をお店で固めるというのは難しいでしょうけれど良いと思います。地方でとんでもない通りをみていると、あの通りあたりは充分まだまだ再生可能性な場所であるという感じがします。

佐藤委員

遊行通り。非常に魅力的なのですけど、世の中行脚しておりますと、大変な事例も沢山ありまして、いざ何かやろうとしますと先程のお話のように、高齢になってお店を閉めて後継者に譲りますよね。これまでお店だった所がいつの間にかお店ではなくなってしまうのです。ところが空き店舗にお店が入ってこないのです。貸して欲しいと頼むと「ここは生活空間だから貸せない」ということになるのです。折角まちづくりとしてこういう構想をつくっても、実施できないのです。これはどうしたら良いのでしょうか。実はここのぶつかりこそがそうだなと思うのですが、ここの通りの住民の理解を得るために「この街はこういうようにつくろう」ということをその住民を巻き込んだ話をやってこないと、「将来的な構想があっただけでできなかった」と、それで終わってしまうのではないかと思います。

村上部会員

ですから、必ずここの地権者を会合に入れてこれからの話しをしていかないと、上手くいかないのではないかと思いますのですけれど。今度の北口通り線が頓挫しているのも、地権者の方の反対だとかが色々影響して遅れていると思います。この間も地権者の方に、それも二代目というか若い方に会議に入っていて色々論議するのが良いのではないかと、我々の間で話をしました。

倉田委員

そうですね。相続するにあつて色々税金等に問題がでて、分割が進み、街が消えてしまったというような現象がおこっていますから。

佐藤委員

銀座通りなどでは、これまでの経緯からして、住民の方が駅前に来て回遊する場所ですよ。八百屋さんがあったり、魚屋さんがあったり、そういう機運を私はも

う一度復活したいと思っております。百貨店の街と飲み屋の街と、そして、昔からの生活の場所が今でもはりついていますものね。

村上部会員

毎回言うようですが、銀座通りではダイエーさんが閉めたことによって、南口まで買い物の足を伸ばさねばならない状態になっているのです。近隣の商店街にそういうものが無いとだめだと思うのです。特に高齢化社会になってきたときに、近場で歩いていけるような買い物ゾーンが無いと、それが商店街の役割だと思います。

柳沢部会長

まあ、今はそういう提案をする材料を考えている段階というところでしょう。ある程度の方向が出れば、街の人を巻き込んで、ということになるでしょう。その大きな話が、今日後半で紹介がありました、自由が丘のような街ぐるみといいましようか、ああいう話になっていけば段々協力体制が確立してくると思うのです。

今のお話を伺って、一応こういうことかと思ったのですが、まずこの中のどれを重点というかについては地元の方では無いのではっきりはわかりませんが、主要な通りをまず何本か選んで、その通り沿いのストーリーを紡ぎ出すようなシーズをできるだけ押さえておく。それを確認するような話がまずあり、そういう材料＝シーズから、こういう通りはこういうテイストというような浮ついた言い方が妥当かどうかは別として、こういうテイストにし、こういうことを狙いにして、活性化を目指していこうではないか、というような話が出てきましたね。

そうすると、そのストーリーを更に補強するために、色々な仕掛けを、既存の施設についても協力してもらうだとか、空き地に関して、こういうものを誘致したいだとか、色々な仕掛けの提案が出てくる。それと併せて、道路側の方が今度はハード・ソフトを、交通処理のあり方、一方通行にするだとか、歩行者天国にするだとか、あるいは舗装をどうするだとか、周辺の店舗にどう付き合ってもらうだとか、さっきの話の街路樹をどうするだとか、そのような感じで、主要な通りについて、ストーリーと対策というようなものが何本か出てきて、それを束ねると藤沢の中心部の街の狙っている何か方向がにじみ出てくると、もしかしたらここの通りはこっ

ち向きで、その通りはあっち向きと、なかなか全体の統一が出てくるのは難しいかもしれないですが、まずはそうしてみたらどうか、とそういう感じで良いのでしょうか。

倉田委員

そうですね。先程自由が丘の話が出て、自由が丘も実は通りごとに全部またそれなりに組織があつて、いかにそれぞれの通りが特色ある活動をするか、ということを行っているのです。連合組織としてきちんと振興組合があつて、そこを中心として、先程お話にあつたまちづくり会社であるジェイ・スピリットができています。ですので、年間を通して通りごとのイベントをなにかしら行っているのです。例えばマリクレール通りならマリクレール通りなりのものがあるのです。その上で女神まつりの時では、街全体を使って展開するという感じになっています。

やはり一つ一つの通りが特徴を持つにあたって、幾つかそれを先導していった通りというのがあります。一つは、緑道になっている通りで、元々あそこは南口の駅裏のような通りだったところでして、そこは手がつけやすかったような状況もあり、久品仏川緑道を利用した形で、まず最初に地区計画をかけて、その緑道を整備と同時に両側の建物をかなりきれいに建て替えているのです。ですので、あそこは自由が丘の中でも非常に整然とした、建物の高さも揃ったりした、それから比較的全国ブランドが入ったような通りになっているのです。

それに対して、今度、サンセットエリアは少し違う個性の通りとなっています。それはそれで成っており、少しずつそれは、幾つかそれぞれの名前がついているだけではなく、だいたい個性がそれぞれできているというのが、結果として回遊性を生んでいるのです。

必ずしも久品仏川緑道だけに行くのではなくて、サンセットエリアの所も行こうだとか、そうかと思うと、意外に駅沿いにある建物を利用した少しレトロな感じの所があつたり、かなり色々な通りがそれぞれあるというのが特徴でもあり、そういう意味で、自由が丘は全部一色では無いということが非常に特徴があります。少

なくともそういう一つ一つの通りに特徴を持たせるかということも必要なのではないかと思います。

柳沢部会長 そのへんがはっきりしてくると、あとの色々な方針の一番根っこの部分が、例えば景観について色々ものを言うときにもそういう考え方が反映するし、住宅をどうするという時にも参考になるという感じがするので、次は是非、その辺を事務局と作業班で考えてください。そこまでくると少し対外的に説明しやすくなってくると思います。なんとなく上手くやりましようといっている感じの段階を経ていないので。さて、時間になりましたが、内藤さん何かご発言の機会がありませんでしたので感想などを。

内藤部会員 さっきから色々伺っていますけれども、私は地域よりの代表で来ていますが、どうも私の住んでいる所と違い、場違いのようでよく分からないですね、はっきり言って。ただ、川向こうの向こう側から来る人達というのは、今村上さんが言われた通り、柳通りのあっちの方は全く行きませんね。みんな市役所の横を歩いて南へ行くのです。南に行くといっても皆、OKへ行ってしまうので、商店街をまるっきり利用していないですね。

柳沢部会長 楽しむ場所として、少し上手く使えていないということでしょうね。

内藤部会員 ええ。今の話の、ここから北へ行くというのも、市役所と向かいのグランドホテルのあそこから向こうの方の、村岡の方から来る人達は、国道467号側の道路から左側の方へは殆ど行かない。皆、下ってきて467号の横を歩いてOKに行くか、たまに通ってもその時は買い物が終わっていますからね、それでは意味が無いですよ。

村上部会員 OKストアは食料品の消費税が3%なのです。それを目当てに一週間に一度大きな袋を持って、皆買い物に行くという理由があるのです。

内藤部会員 どちらかといえばこの関係は、467から東の方の人というか南の方にはあまり関係ない、という訳ではないのでしょうか利用するのでしょうか。

柳沢部会長 内藤さんの近所の方々は歩いていらっしゃるでしょうか。

内藤部会員 歩いていきます。自転車なども使いません。歩いて充分に行かれるのです。

柳沢部会長 そういう方の居場所にここが使えないといけませんよね。

倉田委員 それはそうですね。

内藤部会員 わざわざ、こう出て行くより、つきつて行った方が良いし、食料品にしても何にしてもあそこを利用するものですから、駅の方と比較して、安いから、色々なものがあると、同時にそこで見れば色々なものがあるので、だいたいものは分かるので、何もわざわざそっちの方に出なくてもということになるのです。

柳沢部会長 そう言われましたね。

倉田委員 ものを買うだけであればそれで良いのですけれども。

内藤部会員 もしOKとかああいうデパートが無ければ商店街へ行くでしょうけれど。

倉田委員 楽しみで行くような街にしないと。

内藤部会員 道路がどうのこうのと言われても、何だか。自転車で行くわけではなく、殆ど歩きなわけですから。ましてや車を使うわけでもありませんから。少しずれているような気がしましてね。

柳沢部会長 いえいえ、非常に重要な情報ですよ。

倉田委員 実感ですから。

藤島部長 内藤さんはこの辺のご自宅から道路渡ってこっちに来る気が無いですか。

倉田委員 あの道路がやはり大きく影響するのですね。

内藤部会員 市役所行くのにもそこは通らず、裏道から行きますし。

事務局 つまり集客施設ということですね。目玉があれば行くという。

内藤部会員 ビックカメラができてからは、多少はあちら側に出るようにはなりました。でも、細かいもの買うにはあそこには行きませんし。商店街には色々なものがあるのは分かってはいるのですが、そこ行くまでに途中で済ましてしまうのです。

柳沢部会長 ほとんど毎週私は一時間ぐらい歩くのですが、住宅地なので面白くないです。こ

ういうところを本当は、歩き回って、良い場所があれば歩き回って、ちょっとコーヒーを飲むというのが良いですね。

倉田部会員 2～3箇所立ち寄る場所がある。

内藤部会員 そういえば3日、10日、18日と夜の八時半からパトロールを兼ねて、北と南を廻ったのですが違いますね。北を廻ってもパトロールではないのです。ただ歩くだけ。何も無いのですもの。全部で40～50分ぐらい歩いたのですが、こうも違うのかと。活気がありますね南は。そういうのを見たりして、行ってみたいなという気もするのですが、そこまで行く機会は無いですね。途中でとまってしまうのです。

柳沢部会長 ありがとうございます。では、山田さん一言お願いします。

山田部会員 私、村上さんの所でFMをやらせていただいておりますので、遊行通りは良くいくのですがけれども、やはり、遊行通り4丁目商店街、あの辺は商店街として少し寂しい部分があるので、先程の芸術的な面、またサブカルチャー的な面というものをこれから発展させていただくには、すごく向いているのではないかという気がします。また、あの前を学生さんがよく歩きますので、そういったところからもあの方向性は良い気がしております。そして南の方も橋通りなどは、福岡に行った機会があり、中洲の屋台の通りがありましたが、どこかそういう飲食店的な通りができると人が集まって良いなという気がしますので、橋通りあたりがそういうようになると人の流れがまた変わってくるのかな、という気がします。

一つ確認したいのですが、この横のラインは鵜沼・奥田線ですか。今できていない計画道路ですか。そこで、歩行者と自動車の棲み分けというのが、南あたりはかなり厳しい状況にあると思うのです。前回お話したと思うのですが、エコチャリタウンを鵜沼地区で、レンタサイクルの実証実験を11月に行いました。藤沢駅と鵜沼海岸駅と江の島ボウリングの三箇所で自転車15台レンタルを行うという形で実施したのですが、147件の利用があったということで、まあまあ利用が

あったのではないかと。駅から利用した、というものが一番多かったようだけれども、中には自転車を借りて営業にまわっただとか、ガスの検診にまわったという報告もありましたので、いかに自転車を有効使用し動いたか、という方もいらっしゃいましたし、鎌倉方面まで自転車で行かれたという報告もありましたので、自転車、歩行者の棲み分けというのは藤沢駅周辺ではしていただいた方が良いのではないかと気がしております。

駐車場に関しても、まだ少ないような私としてはイメージがありますし、駐輪場も不足しているような気がしますので、そういう棲み分けをした中で、何か良い回遊性ができるの良いなと思っております。とりとめのない話ですが、以上でございます。

柳沢部会長 ありがとうございます。それでは、今日はこのぐらいで良いですか。先程のような宿題を事務局と作業班は、また相談して作業してください。

事務局 では、今日は全般的にご説明いたしました。部会長から、回遊性、集客性、交通施設という3点に絞っていただいて、皆様から色々ご意見いただきましたので、次回までに、事務局と作業班でやりまして、できましたらこういう既存ストックやご意見等給わった中で、この方針からもう一步踏み込んで、事務局としてこういう形であればこういうことができる、というようなものをお示しいたしたいと思っております。

柳沢部会長 先程の仕掛けというような話だとか、道路側でどういう対応をするだとか、そういう話を含めた具体的なものですね。

神田委員 今のお話の中で、例えば道路でも、遊行通りであれば既に一方通行の措置をしたりしているでしょ。それはファミリー通りにしても同じです。そういうように一方通行を行うことで、ある程度歩行者の安全性の確保ができたりしているわけですから、そういうような要素もピックアップしておいて欲しいです。先程全くでてきていませんでしたが、さいか屋さんの横のところというか、銀座通りの入口の所、斜

めの所は既に歩行者優先道路ですよね。そういうものは何か分かるような形で、是非ともお願いします。

倉田委員 ファミリー通りなどは、かなり可能性のある通りという印象が、歩いてみて思いました。あの辺は新しいお店も少しでてきていたりして、一つの雰囲気がではじめている、そういう感じがしました。

藤島部長 鶺鴒が岡の住宅地の方から駅への、歩行のアクセスのメインのルートですので、よほど広範囲の住宅地の人口が減らない限り交通量が落ちることないと思います。要は、買い物客をどうまわすことができるかではなでしょうか。

倉田委員 あそこは、少しだけ特徴をつくらうとしているお店が幾つかあるような感じがして、ああいうものの集合になってくると、人々はもっと歩きたくなってくるでしょうね。

柳沢部会長 そう、狙いがはっきりしてくると商売をする人も、色々な関係から考えていくようになりますね。

倉田委員 そう思います。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

柳沢部会長 では次回の予定をどうしましょうか。今日決めますか。

事務局 はい。候補として、2月2日（水）か3日（木）、あるいは9日（水）10日（木）あたりはいかがでしょうか。よろしければ時間帯は同じ時間ということで。

柳沢部会長 はい。皆様のご都合はいかがでしょうか。

（予定調整）

事務局 はい、では次回は、2月3日（木）の午後2時から4時ということでよろしく願いいたします。それと若干事務連絡がございます。同じく年明け1月19日（水）に議会の方で、藤沢都心部再生・公共施設再整備特別委員会という、まさに今、皆様方に取り組んでいただいている内容をテーマとする

特別委員会が開催される予定となっております。それと、3月15日（火）に藤沢駅改良専門部会を開催する予定となっております。年度末になりますが、3月28日（月）に第4回藤沢駅周辺地区再整備構想検討委員会を開催する予定となっております。では、次回は、2月3日（木）の午後2時から4時ということで会場など詳細につきましては後ほどお知らせいたします。

柳沢部会長

はい、どうもご苦勞様でした。どうもありがとうございました。

午後4時07分 閉会